

## 編 集 後 記

和文論文は業績にならないから意味がない、という声を耳にすることがあります。確かに組織によっては、和文論文を業績として、あまり重視しないところもあるかもしれません。しかし、小児循環器分野の日常診療の中でわからないことに遭遇したとき、あわててインターネットで検索すると、間違いなくひっかかってくるのは日本小児循環器学会雑誌の論文です。日本小児循環器学会学術集会の抄録がヒットすることもあります。それらをしっかり読みこんで、そこで得られた知識を足掛かりにして、英文誌を検索していくことがしばしばあります。私自身も、この日本小児循環器学会雑誌に投稿した論文について、後日お問い合わせをいただいたことが何度かあります。この編集後記を作成している2週間前にも、2019年の総説を読んで参考にしましたよ、と突然声をかけていただき、いきなり過ぎて心の中で身悶えしました。どんなに小さな発見でも、いつか誰かの役に立つことがあるかもしれません。全国の皆さんに広く知っていただきたいなと感じた事柄に出会ったら、和文誌を活用するという手段を、ぜひ思い出していただければと思います。

(永井礼子)